

マリンビジョンNewsは、サロマ湖地域の1市2町で構成するマリンビジョン協議会が、自然環境と共生した明るい未来を創造する漁村づくりに向けた活動を紹介する広報紙です。

◆ サロマ湖三漁協水揚額史上最高を更新

サロマ湖三漁協（常呂、湧別、佐呂間）の令和4年の水揚げ額は順調な水揚げ量と高歩留まりや円安等の影響により高単価となり、史上最高額の水揚げとなりました。

ほたて77,730t、サケマス4,819tの計画に対し、ほたては93,112t、サケマスは9,472tの水揚げとなり、サロマ湖三漁協それぞれ史上最高額の水揚げを記録しました。

新型コロナウイルス感染症の影響などにより、令和2年度は急激な水揚げ額の減少に見舞われましたが、令和3年度はコロナ禍以前に回復したところであり、水揚げ額更新に漁民はもとより地域住民にとっても明るい話題となりました。

各組合とも来年度以降も安定的な生産、加工を進めるため、増養殖事業を積極的に行う予定であり、地域の水産業の更なる振興が期待されています。

◆ 作業効率化、高品質化に航路浚渫始まる

常呂漁業協同組合では、北海道、北見市、佐呂間町の支援を受け、漁船の安全航行とホタテ養殖作業の効率化や高品質化、健全育成に資するため、令和4年からの2カ年の継続事業として、漂砂などにより水深が浅くなっている佐呂間町キムアネップ岬沖の航路を確保する浚渫工事を開始しました。

この工事は、浜佐呂間漁港とホタテ養殖施設とを結ぶ航路上で、航路が浅く、干潮時の座礁の危険があり、航路幅も狭いことから航路内の対面交差ができないなど、漁業生産活動に影響があるため浚渫を行っているものです。

浚渫工事は、幅40m、延長800mの航路を掘削する見込みで、令和5年秋ごろに完了する計画となっており、これにより養殖作業の迅速化、効率化が図られ、地域の水産業の安定発展に寄与するものと期待されています。



◆ 常呂カキまつり大好評！

11月23日常呂漁業協同組合主催による「カキまつり」が開催されました。

当日は北見市常呂町にある常呂漁業協同組合直売店横スペースを会場に、サロマ湖で養殖された、新鮮な牡蠣を約2トン、殻付き牡蠣、剥き牡蠣として販売されたほか、貝付きのホタテやむき身のほか、富有柿も販売されました。

会場にはサロマ湖周辺の方はもちろん、道央道東地方からも季節の味覚を求め約千人のお客様が訪れ会場は大盛況でした。

来シーズンはコロナウイルス感染症の収束を期待し、サロマ湖三漁協それぞれにカキまつりが開催され、多くの皆様にサロマ湖の牡蠣を味わっていただきたいと願っています。



操業の安全と豊漁を祈ります！

発行 サロマ湖地域マリンビジョン協議会

2023.1.20

編集 サロマ湖地域マリンビジョン協議会事務局広報担当

〒093-0502 佐呂間町永代町3番地の1

佐呂間町経済課水産係

T e l 01587-2-1200 ・ F a x 01587-2-1131

M a i l kankou@town.saroma.hokkaido.jp



ももちゃん